

# 登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会 第6回まちづくり部会 議事録

**日時** 令和4年10月6日（木）13時30分

**会場** 登別市婦人センター講堂（2F）

**出席者** （委員）川西委員、成田委員、須賀委員、日野委員、勝間委員

（事務局）【教育部】堀井部長、近間総括主幹、蓬田主査

【総務部】井上次長、大澤総括主幹

【観光経済部】服部総括主幹

**○部会長** 時間となりましたので、これより「登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会」の第6回まちづくり部会を開催いたします。

今回は、登別地区の事業所の皆さんをお招きし、事業所の現状や非常時の対応、仮にこの地区から中学校が無くなった場合の影響などに関し意見交換を行いました。

お招きした皆さんからは、従業員の居住地などに関し具体的な話が伺えたほか、登別中学校の統合についても、それぞれの立場から思いを聞くことができました。

その結果については、事務局が要点をまとめておりますので、後ほど報告を受けたいと思います。

本日は、前回の意見交換の結果はもちろん、第3回におけるコンベンション協会などとの意見交換の結果も踏まえて、ポイントを絞って議論を進めていきたいと思っております。

それではさっそくお配りした会議次第に基づき進めていきます。はじめに、本日は、今後の議論の参考として、もう一方の部会である教育環境部会の議論の動向について、事務局で資料を用意しているとのことですので、会議次第2の「情報提供」として説明を受けたいと思います。事務局、よろしくお願いいたします。

○事務局 (事務局より資料に基づき説明)

○部会長 事務局より、(1) 教育環境部会における議論の動向について説明がありました。これに関し、質問などがあればお願いいたします。

(なしの声あり)

○部会長 次に、会議次第3の「協議事項」に入ります。まちづくり部会では、これまで2回にわたり、各方面の関係者をお招きし、意見交換を行ってきました。まちづくり部会としては、その結果を踏まえて議論を深め、部会としての結論をまとめていかなければならないと思います。そこで、第3回におけるコンベンション協会との意見交換、前回における登別地区の各事業所との意見交換について、事務局で結果をまとめているとのことですので、説明を受けたいと思います。事務局、よろしくをお願いします。

○事務局 (事務局より資料に基づき説明)

○部会長 事務局より、第3回と第5回における各方面との意見交換の結果について、説明がありました。意見交換の結果も踏まえて、皆さんからあらためて意見を聞ければと思います。

○委員 私は両方の部会に参加しているので、賛成、反対どちらなのと言われると、なかなか言いにくいのが正直なところですが、前回の意見交換会に参加して下さった皆さんの意見を伺って、自分としては、いろいろ思うところがあります。子どもの数が少なくなるのは明らかですし、数で考えれば、統合を検討しなければならない時期にあるのは私も感じています。ただし、さきほど説明があったように、居住者同士の繋がりに惹かれてこの地区に戻って来て、家を建てたという方がいらっしゃる中で、仮に中学校が無かった場合にどうだったのか。人との繋がりを育む場として、中学校がどの程度大きな役割を果たしていたのかということ

については、突っ込んで聞くことはできなかったのですが、仮に中学校の役割が大きいとして、でも規模の問題で統合せざるを得ないのだとしたら、それを補うための仕組みに関して、まだやれることはあるのかな、話さなければならないことはあるのかなと思っています。

○部会長 他にありませんでしょうか？

○委員 私も教育環境部会とまちづくり部会、両方に関わらせていただいている、さきほど事務局から各部会のまとめに関して説明がありましたが、これについてはそのとおりだと思います。これまでの議論の中で、子どものことを考えた場合に、統合のメリットというのは間違いなくあるということは十分理解できました。ただ、この地区で育って来て、この地区で活動してる人達の思いがかなり強い地域だという事もあらためてよく分かったと思います。その結果、最終的に統合ということになるとしても、反対派と賛成派の溝ができてしまっているような気がしています。そういう意味でも、教育環境部会とまちづくり部会を分ける、この方式で議論を進めていくのが果たして良いことなのかについては、あらためて行政には考えて欲しいと思います。もちろん各部会の議論としては、それぞれ意見をまとめなければならない時期に来ているのは理解しています。教育環境部会でも議論が進んでいて、前回の会議では、結論部分の文言に関して納得がいかない部分があったので少し声を荒げてしまったのですが、この委員会は、様々な立場の人間が、地域の人達を代表して議論している場ですので、反対、賛成を含め、様々な意見があるのは当然だと思いますので、そういった意見をしっかり汲み取っていただきたいと思います。会議だから結論を出さなければならない、模範解答を前提に議論をまとめるということに関しては、地域に住んで、ここで仕事をして、プライベートな時間を使って多くの時間を費やしている委員に対する態度として、いかがなものか思います。地域を代表して参加している委員の言葉は、反対意見も賛成意見もきっちり汲み取っていただき、その結果、結論が少し物足りない、ボヤっとしたものになったとしても、それは議論の結果として、次回議論する時の資料として残していただきたい。これからまとめに入るということで、非

常にナイーブな時期になってきていますので、そのあたりは事務局にも考えていただきたいと思います。

○部会長 他にありませんでしょうか？

○委員 今日の会議は、どのような方向で議論を進めることになるのですか？

○部会長 皆さんの意見を聞いて、まとめられるのであれば、まとめて行きたいと思っています。

○委員 ただ、今日は4人しか出席していないので、今日の会議で結論をまとめても、部会としての結論にはならないのではないかと思います。

○部会長 欠席が南委員、工藤委員、太田委員、黒田委員ですか。

○委員 9人のうち4人欠席ですか。半分ちょっとしか出席していないので、今日の会議で結論をまとめるのは難しいと思います。道新の記事を持って来るのを忘れたのですが、スクールバスの記事が出ていて、距離が伸びれば伸びるほど子供に悪影響を及ぼすと、やはり適度な距離がいいと。スクールバスを走らせても幌別になると影響が出てくると、仮に幌別中学校までスクールバスを走らせたとしても、やはり弊害があるんだと。以上です。

○部会長 出席者が少ないので、結論をまとめるのはどうかという意見をいただきました。

○委員 もう一点、事務局の資料には大規模校のメリットは書いてあるけれども、小規模校のメリットは書いていない。

○事務局 小規模校のメリットについても、もちろん話はありませんでしたが、教育環境部会で出た主な意見をまとめたものですので、このような形になっております。

○委員 小規模校のデメリットしか書いていないじゃないですか。

○事務局 デメリットについても、特に書いていないと思いますが。小規模校、大規模校、それぞれのメリット、デメリットを踏まえた、統合に対する意見が記載してあると思います。

○委員 もう一つ、確かに私も11月ぐらいまでに部会としての意見をまとめるように聞いています。はっきり言って教育委員会に聞きたいのですが、どの時期までに結論をまとめなければならないのか、今後のスケジュールを教えてください。

○事務局 地区別検討委員会としては、年度内に結論をまとめる方向で進めているところです。

○委員 そうするとこの部会としては、あと2回程度ということになりますか。

○事務局 検討委員会としての結論が年度内ですので、この部会としては、本年中、遅くとも来年1月までには議論をまとめなければならないものと思います。

○部長 今日は参加者が少ないということですので、結論はさておき、出席者の皆さんの意見を聞いてみたいと思います。

○委員 教育環境部会の結論としては、統合に賛成という方向性になるのかと思います。一方、まちづくり部会としては、やはり統合は避けたいということになるのだと思います。学校はまちの基盤ですので、まちづくりを考えれば、当然のことだと思います。それはそれぞれの方向から話し合った結果、そのような形になるわけですが、教育環境部会とまちづくり部会で妥協点を探らなければならない、歩み寄りしなければならない、どこかでその接点を探ることが必要なのかなと思います。

**○部会長** まちづくり部会としては、様々な分野の方をお呼びして話を聞いてきました。各方面の方から話を聞くと、いろいろな意見が出てきます。我々としては、各方面の皆さんから聞き取った意見を汲み取っていきます。ただ、部会に参加してもらってる方は、地域に根付いている方達ですし、地域を代表して来てますから、この町に対する思いは強い。その部分では企業の皆さんとは異なるところがある。その他、さきほど小規模校のメリットが書かれていないという話がありましたが、教育環境部会としては、小規模校のメリットよりも、デメリットを問題とする声が強いので、このような内容になっているのかと思います。ただ、小規模校の良さというのも、少し考えなければならぬのかと思います。仮に登別中学校を残すという方向性があるとするれば、小規模校のメリットをもっとアピールしなければならぬと思います。学校を残すとして、いつまで残せるかというのは分かりませんが、小規模校のメリットはたくさんあると思っています。さきほど小中一貫校の話がありましたが、私も定山溪まで話を聞きに行って来ました。仮に小中一貫校を作った場合にどのような教育ができるのか。一貫校を作ったとしても、縦のボリュームが増えるだけで、同学年の横のボリュームが増えるわけではないので、小規模化の対策にはならないとの説明がありましたが、縦のボリュームで解決できることはないのか。その部分もう少し話さなければならぬと思います。もう一点、この校区には様々な企業があります。委員の中には、この地区で企業経営に携わっている方もいらっしゃいます。学校規模の基準で言えば、中学校の場合、1学年2クラスが必要ということになっていますが、登別中学校をその状態にするためには、毎年、子どもを20人増やすことが必要になるわけで、そのためにはこの地区に人を呼び込まなければならぬ。そのための住宅政策はどのようなものになるのか、そのために企業にできることはないのか。概ねいま申し上げた3つの方向で、我々にできることは何か、議論を深めることが必要かなと思います。部会として結論を出さなければならぬ時期というのがありますので、いつまでも議論を続けるわけにはいきませんが、さきほども委員からあったように、意見が割れている中で、早急に結論を出そうとすれば、地域を二分することにもなってしまいますので、意見を交わす中で方向性が見出されるまでは、議論を続けなければならぬと思っています。

**○委員** 小中一貫校についてですが、小中一貫校については、デメリットしか書いてい

ないと思えるのですが。

○事務局 小中一貫教育自体が、もともと小規模化対策ではありません。もともとは中1ギャップへの対策であったり、義務教育の枠組みが50年以上の長きにわたって変わっていない中で、子どもの成長の速度が変化してきている、そのことへの対策であったりしますので、必ずしも小規模化への対策として考えられているものではありません。その結果、小中一貫校を設置したとしても、小規模化の課題は解消されない。資料ではその点について記載しております。

○委員 文部科学省は、小規模校を廃止していく方針を持っているわけで、小規模校の悪口でしかないということです。

○事務局 そもそも小中一貫教育自体が、学校の小規模化対策として位置付けられているものではないということです。

○部会長 少しわかりにくい部分があるのですが、小中一貫教育というのは、小学校と中学校が連携して行う教育であって、今でも登別市では取り組んでいるんです。小中一貫教育と義務教育学校はまったくのイコールではないんです。

○委員 文部科学省が書いているのであれば明らかです。要するに小規模校を潰して統合するということだから。

○事務局 そもそもなぜ統合が必要かと言えば、横のボリュームを、同学年のボリュームを確保しないと実現できないことがあるからなんです。小中一貫教育、義務教育学校という手法をとっても、横のボリュームを確保できないということです。そういう意味で、小規模化の対策にはならないということです。

○委員 それはおかしい。文部科学省は統合を推奨しているのだから、小規模校のことはわからない。

○事務局 小規模校の弊害として、社会性が身に付きづらいですとか、友人との関係がこじれた時に人間関係をリセットしづらいといった問題があるわけですが、義務教育学校という方法によったとしても、同学年のボリューム、横のボリュームが増えるわけではないので、対策にはならないということを申し上げております。

○委員 小規模校だから駄目だとは限らないと思いますが。

○事務局 もちろんいろんな子どもたちがいますので、個々の子どもで見た時には、一概に悪いとは言えないわけですが、一般的な問題として、さきほど申し上げたような点があるということです。

○委員 初めから統合を目指している、そういう表現になっている。小規模校の悪口しか書いてない。

○事務局 悪口ではなくて、義務教育学校では必ずしも対応できない部分があると書いてあります。

○委員 大規模校にだって人間関係の問題はあるでしょう。大規模校も対応できていないじゃないですか。

○事務局 当然、大規模校にも対応できない部分はありますが、小規模校の場合、その傾向がより強いということだと思います。

○委員 初めから統合を目指しているのもそういう表現になるんです。

○事務局 初めから統合を目指す趣旨で書いているわけではありません。

○委員 私はそう捉えています。次の教育環境部会の会議はいつなんですか？

○事務局 10月19日です。

○部会長 まちづくり部会としては、少なくとも今回の会議に参加している方の中では、なんとか学校を残したいという思いで一致しているように思います。子どもたちの教育環境を考えた時に、残すという決定がどのような結果を残すのかということについては、非常に複雑なところがあるのですが、可能性として残せるなら残したい。そのためには、地域に学校があることの良さを話していかなければならないと思います。教育環境部会との間でも、お互いに悪さを見るのではなく、良さを見なければなりません。もし現在の状態で残すとしたら、現状の良さを話す必要がありますし、それが難しいのであれば、1学年2クラスにするために、子どもの数を倍にする方策を考えなければなりません。そうでなければ、教育環境部会に議論をリードされてしまいます。

○委員 小中一貫校については、学校の小規模化対策にはならないと書いてあるけれど、虎杖浜地区の子どもたちに来てもらうことはできるのでしょうか。可能性はあるのでしょうか？

○事務局 詳しくは教育環境部会で話しましたが、義務教育については、基礎自治体が学校を設置して実施することになっていますので、虎杖浜地区の子どもたちを登別中学校に受け入れるためには、登別市と白老町で学校を運営するための一部事務組合を組織し、組合立の義務教育学校を設置して、そこに虎杖浜地区の子どもたちを受け入れることとなります。ただ、実際にこれをするためには、白老町が同様の意思を持つことが必要になりますし、虎杖浜小学校は廃止となり、虎杖浜地区の子どもたちは、白老町立の学校に通えないこととなりますので、住民の理解も必要になります。登別中学校を存続させるために、白老町や虎杖浜地区の方達にそうしたことを提案するということが果たして現実的なことなのかといお話は、教育環境部会でも説明させていただきました。

○委員 白老町側が提案に乗れば、虎杖浜地区を白老町教育委員会から切り離して、こちらの学校に通わせることも可能ということですね。

○事務局 さきほどの話を裏返せば、虎杖浜地区の住民が、白老町教育委員会の行政範囲から外れ、虎杖浜小学校が廃止となり、代わりに登別地区に設置される義務教育学校に通うことを受け入れ、その上で、白老町教育委員会が登別市教育委員会と一部事務組合を組織することに同意するというのであれば、制度上は可能ということになります。

○部会長 そうした方法で人数を確保することはできないかということですが。

○委員 書き方もこれだったら駄目だよ、この資料の書き方だと、無理というようにとられてしまう。

○事務局 この資料はあくまで教育環境部会での議論をまとめたものです。当然、教育環境部会の会議では、別の資料を用いて、制度としては可能ということも説明しております。ただ、現在、虎杖浜小学校は全校児童が34人しかいませんので、1学年6人程度です。1学年当たり6人増えたとして、果たして小規模化対策になるのかという部分はあろうかと思えます。

○委員 6人も増えるんですよね。1学年6人増やすのは大変ですよね。

○事務局 現在の登別中学校の状況で、仮に1学年当たり6人増えたとしても、学校規模の基準を満たすことにはなりませんし、小規模化対策にはならないと思っています。

○部会長 是非我々で議論して、この地区に人口が流入するような策を、民間の取組を含めて考えなければならないと思います。例えば民間企業がどの程度の住宅手当を支給しているのか、これを増やすことで、この地区に住んでもらえるようにでき

ないのか。一生懸命頑張って、人口を増やして、1学年40人にしたいと思います。今までできなかったのは、非常に切ないですし、辛いですが。もっと早く取り組むことができているらばどうだったのかと思いますが、温泉中学校と統合した時には、1学年2クラスか、若しくは1クラスと2クラスのボーダーライン程度の人数は居たので、そこまで差し迫った危機感はもちろん無かったわけですが、ここ15～16年の間にここまで減ってしまった。1年に1人ずつ減れば、15年でここまで減ってしまうということなんだと思いますが。ただ、ここでまちづくりをやめるわけにはいきませんので、我々としても頑張らなければならない。教育環境の観点から言われてしまうと、非常に切ないし、辛いなあと思っておりますが、そうした意味でも、少人数のメリットはどのようなことなのかという話をしなければならないと思います。それでも、いま教育環境部会で話し合われているように、ある程度の人数を確保しなければならないということであれば、そこに近づけるためにはどうすればいいのかということも議論しなければならない。いつまでにこんなことをしてというようにまとめて、さらに小中一貫校、義務教育学校の可能性を追求して、その上でやむを得ないということであれば仕方ないのかなと思います。

**○委員** 教育環境部会で、小中一貫校のことを議題にして欲しいと言ったのは私なんです。というのも、この地域は虎杖浜地区との繋がりが強いですし、幼稚園については、虎杖浜地区から子どもたちを受け入れているので、虎杖浜地区の人達と上手く手を組んではどうかと思った部分もあり、議題にあげてもらいました。会議では、部会長と事務局から分かりやすい資料を出していただき、現実的にはなかなかハードルが高いということは分かったのですが、教育環境部会としては、虎杖浜地区の子どもたちを受け入れたとしても、人数のボリュームとして、それでは足りないということなるのですが、まちづくり部会としては、まちづくりのために、中学校の存続を議論しているわけで、この方法だけでは足りないとしても、これも含めて、様々な方法を組み合わせることで存続が図れないものかと思っております。1学年20名増やさないといけないのであれば、虎杖浜地区の子どもたちを受け入れることで6名増やせる、その他にこの地区に新たに市営住宅を建設する

ことで、例えば30世帯がこの地区に流入すれば、これで子どもが何人増えるというように、複数の手法を組み合わせることで、子どもの数を確保できないものかと思っています。教育環境部会は子どもの教育環境の観点から、まちづくり部会はまちづくりの観点から議論するという組み立てで進んでいるわけですから、この部会としては、今後のまちづくりをどうすべきかということの主眼にして話していてもいいのではないのでしょうか。ただ、人情的には、まちづくり部会でまちづくりの観点から中学校の存続を話していても、子どもの未来のことが頭をよぎりますし、逆に教育環境部会で、教育環境の観点から議論している時には、まちづくりのことが頭をよぎってしまいます。そうしたことを考えれば、部会に分けて議論するという組み立てが正しかったのかどうなのかと個人的には思っています。そうは言っても、それぞれの部会で結論をまとめ、それを検討委員会本体に上げて議論を続けていくことになるのですが、委員の中には70代、50代、40代と様々な世代が居ますが、それぞれの立場でまだまだ意見があると思います。過去に計画して実現できなかったプランもあるのではないかと思います。実現のために行政と話をし、良いところまでいったんだけど、当時はこんな理由で実現できなかった、そういったプランがあれば是非私たちに教えていただければと思います。

**○部会長** 検討委員会として本年度中に結論をまとめるとすれば、部会としてはあと2回程度ということですが、これまでも各方面の方達をお呼びして広く意見を聞いてきました。また、私個人でも、諸団体や企業の方にお会いする機会があった際には、この問題について話を聞いています。中には、「もうしょうがないんじゃないか」という方もいらっしゃいますが、状況に流されるから、こういう結果になってしまうんじゃないかという思いです。子どもの数が少なくなるのにしたがって学校を無くし、中央に集めていく。そうしたことを繰り返していくのは、集めて集めての原理で対処療法に過ぎないと思います。その場をしのぐために仕方ないのかもしれませんが、根本的にどうなのかという疑問があります。委員からもありましたが、この地区で育ててきた物はどうなるのか。そうしたものがどんどん薄らいでいったら、町が無くなってしまいますし、それは子どもたちにとっても

損失だと思えます。状況に流されるということは、自ら町を無くす行動をしているのかな、ちょっと違うのではないかなと思えます。もう少しやれることをやって、頑張って残す努力をしないと駄目なのかなと思っています。本年度の初めに、まちづくり部会の部会長の話をいただいた時には、私自身、「仕方ないのかな」と考えていたのですが、部会長として携わるようになってからは考えさせられることが多く、「ちょっと違うなあ」とも思いましたし、ここで終わりと言われて、それを受け入れてしまったら、まちづくりも終わってしまうし、町も終わりですから。今まで頑張ってきたからこそ、いまの町があると思えますし、そういうことの積み重ねがまちづくりですから、子どもたちにそういう後ろ姿を見せなければならぬという思いもあります。

○委 員 虎杖浜地区との連携の話なのですが、学校小規模化の対策にはならずで切らずに、「ただし、白老町と協議の上、虎杖浜地区の学童を受け入れることはできる」くらいの表現をして貰いたい。

○部 会 長 これは教育環境部会のまとめだと思えますので。

○委 員 否定的ではなくて、可能性はあると書いて貰いたい。

○事 務 局 これは、教育環境部会の議論をまとめた物ですので、例えば虎杖浜との連携についても一度まちづくり部会で話したいということであれば、教育環境部会の方で説明した資料を用いてお話しすることはできます。その資料では、さきほどお話ししたように、可能性を否定はしておりませんので、機会があればお話しさせていただきたいと思えます。

○委 員 教育環境部会の方々が分かっているならば、それでいいですけど。

○事 務 局 教育環境部会の方々には理解いただいています。

○委員 事務局にお伺いしたいんですけど、この部会もそうですし、教育環境部会や検討委員会本体もそうなんですが、意見が集約できないとなった場合は、どのような形で部会や検討委員会の意見を取りまとめていくことになるのか。多数決をとることまで予定しているのか。

○事務局 基本的には、皆さんで議論していただき、もちろん全員が100%納得ということにはならないかもしれませんが、議論の中で意見をまとめていただくのがよろしいのかと思っています。それがまちづくりにとって、この地域のまちづくりにとってもいいことだと思いますので、まずは意見をまとめる努力をしていただきたいと思っております。その上で、保護者の皆さん、地域の皆さんで話し合っていたいただいた結果を踏まえて、最終的には教育委員会で判断を行うこととなります。

○委員 議論を引き延ばしてもしようがない。延したって結論が出るとは限らない。

○事務局 もともと教育委員会としても、地域の皆様の意見を伺いながら決めることを前提にしています。グランドデザインの中では、令和7年度に統合という想定をお示ししてはいますが、それはあくまでも想定に過ぎないという話は最初の段階からさせていただいています。皆様の議論が延びるのであれば、当然、教育委員会として判断する時期も後ろ倒しになってくる。あくまでも本年度中に検討委員会として結論をとというのは想定に過ぎません。

○委員 令和7年度までに統合しなければ、文部科学省からペナルティを課されるということではないんですよね。

○事務局 それはありません。例えば学校を統合しないからといって、地方交付税が減らされるとか、そうしたペナルティはありませんが、例えば子供の数が少なくなるとクラス数が減ってしまえば、都道府県で給与費を負担している教員の配置数が少なくなると、結果として、教育環境にしわ寄せがきてしまう可能性はあります。

○委員 場違いな発言になるかもしれませんが、今はこの部会で学校を残す残さないの議論をしていますが、もともとは中学校が無くなることによって、まちづくりに影響があるんじゃないか、町が衰退してしまうのではないかとということが出発点になっているわけで。あくまでも仮の話になりますが、登別中学校が統合となって、跡地にまちづくりや人口流入に好影響を与える施設ができるということも可能性としてはあると思うのですが、現時点で跡地利用に関する案というのはあるのでしょうか。

○事務局 跡地利用の話に議論が進んだ際にとということもあって、総務部企画調整グループにも事務局として参加してもらっていますので、お話しいただきたいと思えます。

○事務局 統合ありきになってしまうので、跡地利用の話については、この場でもなかなかできなかつたのですが、あくまでも仮に統合になった場合という話を、昨日の地区懇談会でもさせていただきました。市として、登別中学校敷地、約3万㎡ありますが、あの土地に何か公共施設を建てるといった具体的な案が現時点であるわけではありません。登別駅前に観光交流センターも整備されますし、この地区に新たな公共施設として考えられる機能は今のところ無いものと思っています。ただ国道に面した、あれだけの面積がある土地になりますので、登別地区のまちづくりを進める上では重要な土地であることは間違いないものと感じています。現在、市として活用の案が無いということになれば、当然民間の力をお借りすることになるわけですが、はたして民間にニーズがあるのか、ないのか、私達も現時点で把握できていませんので、仮に統合となる場合には、民間の意向を調査するというところから始めなければならないものと考えています。まちづくりの視点で言えば、企業が参入して雇用が生まれる、そうした形で活用されるのが最も望ましいものと思いますが、ただ、現在、登別中学校敷地、都市計画上の用途で言えば住居系の地域になりますので、規模にもよりますが、企業があの土地を活用するには都市計画上の用途変更の手続きが必要となり、一定程度時間を要するも

のと思います。このため、仮に統合が決定し、行政で跡地を活用することが想定されず、民間に活用してもらうことが想定される場合には、早めに民間の意向を確認し、地域の皆さんとも議論を深めていくことが必要と思っております。

○委員 雇用が生まれるような使い方と言いましたよね。

○事務局 そのような使い方可能性としてはあるのではないのでしょうか。

○委員 子供が増えても学校を統合してしまえば、時すでに遅しということもありますので、統合と跡地利用の議論には、そうした矛盾もあるんですよ。

○事務局 現在、登別中学校1年生は1学年20人を下回っている状態で、小学校6年生、5年生も同様の状態です。4年生、3年生は20人を越えていますが、2年生はやはり20人を下回っているという状態です。こうしたことを考えると、教育委員会が考える適切な学校規模を確保するためには、毎年度、子どもを2倍以上増やさないとならないこととなります。この話は昨日の地区懇談会でもさせていただきましたが、子どもの数を毎年度2倍以上増やし続けるというのは、仮に登別中学校跡地に企業を一社誘致できたとしても、これは不可能だと思います。ただ、子どもの数が減っていくというのは、登別地区に限った話ではなく、幌別地区でも、グランドデザインの第2期には、幌別中学校と西陵中学校の統合という話が出てきます。そうした意味では、登別地区だけの課題ではなく、市全体で人口を増やすための取組が必要になるわけですが、これまでも登別地区では、他の地区に比べても、地域の皆さんが一体となって、活性化のための取組を行ってきたものと思っています。また、市としても、観光交流センターをはじめ、登別地区の活性化には特に力を注いできました。もちろんもっと前からそうしたことをできなかったのかという議論はあろうかと思いますが、それはいま言っても仕方ないことだと思いますので、これから何ができるのかということをご一緒に考えていきたいと思っています。

**○委員** グランドデザインでは、登別小学校は残すということになっていますが、おそらくグランドデザイン自体、数年後には見直すことになると思います。一方、登別小学校の児童数もどんどん減ってきています。うちの子の学年、5年生は15人しかいないという状況です。児童数が減ってくれば、当然グランドデザインの内容にも影響が出てくると思います。登別小学校についても、統廃合の話が出てこないとは限らないと思うのですが、登別小学校は統廃合しない、小学校としてこの地区に残していくということにはならないのでしょうか？

**○事務局** 現在、登別小学校では1学年1クラスが確保されていますが、連続する2学年で児童数が16人以下になりますと、複式学級になってしまいます。では、今後、登別小学校の児童数、クラス数はどのように推移していくのかということですが、グランドデザインにおいては、今後35年間の再後半まで複式学級は生じないものと見込んでいることもあり、登別小学校は残すことを前提としました。もう一点、中学校は高校へのステップという側面がありますので、ある程度の規模は確保しなければならないということで、登別中学校については、近隣校との統合を想定しましたが、小学校に関しては、子どもたちを地域で育むという側面が強いものと考えていますので、グランドデザインの策定にあたっては、小学校は地域に1校という考え方を基本としました。そうしたこともあり、登別小学校については、地域に残すことを想定したところです。現在のグランドデザイン、令和7年度には見直すことになり、その時点の児童数の見通しなどで、近い将来、複式学級が生じることなどが見込まれた場合には、再検討しなければならないものと考えていますが、少なくとも現在のグランドデザインでは、今後35年間の再後半まで、複式学級は生じないものと見込んでいますし、小学校は地域に1校を基本に考えていますので、現時点では、登別小学校に関しては、残していきたいと考えています。

**○委員** いまの事務局の説明、登別小学校の取扱いに関しては、グランドデザインに位置付けられていましたか？

○事務局 登別小学校については、ランドデザインにおいても、1期、2期、3期の全期間を通じて、維持することを想定する旨明記されています。

○委員 さきほど説明があった登別中学校敷地の都市計画上の用途についてですが、用途変更とした場合、こういったところと調整が必要になり、またそれにはどの程度の期間を要することになりますか。例えば、商業施設を誘致する場合とマンションを誘致する場合では、要する期間も異なってくるように思うのですが。

○事務局 現在、登別中学校の敷地は第一種住居地域となっております、ここに店舗等を建設するということになると、3千㎡未満という制限がありまして、それ以上の床面積ということになりますと、現在の用途地域では不可となります。例えば、店舗等を誘致したとしても、3千㎡以上の店舗ということになりますと、都市計画上の用途地域の変更が必要になります。用途地域の変更には、北海道との協議が必要となりますし、圏域をひとつにする室蘭市との協議も必要になります。これらの協議を、事業者の事業計画が明確になった後に進めることになるわけですが、協議に要する時間を考えれば、一定程度の時間が必要になるものと考えています。また、現在の用途地域が第一種住居地域ですので、ここから商業地域や準工業地域に変更となりますと、用途制限上は飛び級するような形になりますので、かなりハードルが高いと感じていますし、段階を経てということになりますと、やはり一定程度の時間を要することになるかと思っています。

○委員 どれぐらいの期間が必要になるのですか？

○事務局 5年まではかからないと思いますが、年単位で時間を要するものと思います。

○委員 仮に登別中学校が統合となり、跡地利用を考えることになった場合には、道の駅という話が出てくるものと思います。ただ、道の駅は行政が関わらなければなりませんので、駅前に観光交流センターが建設されていることを考えると、同様の施設を近距離にとはならないのかなと思います。であれば、例えばスポーツ用

品メーカーと連携してという例も道内にはあるようですので、こうしたことも参考になるかと思います。具体的に言えば、富良野市が市有地を提供し、アウトドア用品メーカーが開店した店舗が好評で、道の駅以上の集客効果があったと聞いています。跡地利用を検討するのならば、道の駅に固執せずに、そうした例も勉強しなければならないと思いますし、登別温泉の観光客の動向を見ると、観光バスで入るといふ形から個人の車でという形に変わってきていますので、そうした観光客をどのように取り込んでいくのかということも考えなければならないと思います。もちろん統合ありきで議論してしまうと、本末転倒になってしまうわけですが、跡地利用に関しても、我々部会としては、併行して議論することが必要かと思います。そうしなければ、仮に統合となった時に、やっぱり駄目だったで終わってしまいますので、両方を見据えながら議論していく必要があろうかと思っています。

**○部会長** 委員が口火を切ってくれたのでやっと跡地利用の話もできましたが、これまではある意味タブーでなかなかできなかった。この部会では、そうした話もしなければならぬと思っています。

**○委員** 教育環境部会ではこういう話はできないと思いますので。まちづくり部会だからこそできる。

**○事務局** ただ、どのような位置付けで跡地利用の話をするのかというのが難しいのかなと思います。

**○委員** そうですね。跡地利用の話をする、統合を受け入れたようにも取られかねませんので。

**○事務局** 跡地利用の話をする場合に、それを結論にどのように位置付けるかというのも難しいところです。仮にという形で、跡地利用に関しても書き込んでいくイメージになるのでしょうか。

○委員 結論に書き込むことには違和感があります。

○委員 仮に統合になる場合としてこういう事を・・・やはり仮にというのは違和感がありますね。他地域の事例を研究したという形で、文言の中で表現するしかないかなと思います。

○部長 委員の中には、小学校、中学校が無くなった後の登別温泉の状況を見て、反対にこだわっている方も居ると思いますし、また、カルルス温泉の状況を見てきて、町が細っていくのを目の当たりにして、そうなってはいけないという思いで参加されている方も居ると思います。

○委員 まちづくり部会としては、統合に反対ということにはなろうかと思いますが、反対と言ってるだけでは展望は開けません。ただ、跡地利用の話をする、統合という仮定の話をしなくてはならなくなってしまう。そうではなくて、例えば、登別中学校を5年間残す、10年間残すとなった時に、その5年なり10年でどのようなことをやっていけるのか。さきほど話になった虎杖浜地区から子どもを呼び込むことも案のひとつとして考えていく。それも含めて、複合的に3つなり4つなりの策を組み合わせて、1学年10人なり15人なりを増やす方法を議論していかなければならないと思います。それと併行して、仮に統合となった場合に、登別中学校跡地をどのように活用していくのかということも考えていかなければならない。カルルス地区に住んでいる者として、登別地区の方には失礼な言い方になってしまうかもしれませんが、カルルス地区の学校が無くなって、続いて温泉地区の学校が無くなり、その時点でこのような議論ができていたかという疑問符が付くのですが、結果として、温泉地区は、他地域で行っている清掃活動や美化活動もままならない状況になってしまった。いま登別中学校を無くしてしまえば、15年後、20年後に、登別地区で同じことが起きてしまうのではないかと危惧しております。行政の方々からすれば、いまは教育委員会や企画調整グループとして議論に参加していますが、来年は総務課なり、税務課なり、他部

署に異動してしまい、議論には参加しなくなる。しかし、私たちにとっては生まれ育った町ですし、これからもここで生きていくわけですから、思い入れの強さが行政よりも深くて強いと思いますので。

**○事務局** さきほどの委員のお話からすると、まちづくり部会としては、やはり統合に反対とならざるを得ないということなのかなと思います。その上でになりますが、統合やむなしとなった際の跡地利用を含めた活性化に向けた取組に関して、部会としての結論の中に「仮に」という形で書き込んでいくのか、あるいはそれは書かずに、検討委員会本体でやむなしとなった場合の腹案として持っていくのか。ただ、部会を分けた経緯やまちづくり部会の目的からすると、跡地利用をはじめとした地域活性化の取組に関しても、この部会でしっかり議論していただき、それらまちづくりの可能性も含めて、結論に書き込んでいく。統合には反対だけど、仮にやむを得ないのだとすれば、まちづくりの観点からは、これらの取組が必要だと、そのような形で併記していくべきなのかなと思います。検討委員会本体では、全体的に議論することになりますので、まちづくり部会として、議論すべきことを議論していないとはなりませんので、そのあたりも考えていただきたいと思います。部会としての結論に「仮に」という形で書き込むのはやはり許容できない部分があるでしょうか？

**○委員** まちづくり部会としての結論に「仮に」という形で書き込むことはできないと思いますので、跡地利用をはじめとした地域活性化の取組に関しては、部会としての結論に書き込まず、検討委員会本体で統合やむなしということになった際に持ち出せばいいのではないかなと思います。

**○部会長** 今回は後半になってかなりざっくばらんな話のできましたので、次回も引き続きこのような形で意見交換できればと思います。次回についてですが、事務局よりお願いします。

**○事務局** 次回についてですが、今回は後半で少しいい話のできましたので、引き続きざ

つくばらんな話をできればと思います。ただ、あまり急いでやっても皆さんのお考えが深まらないところがあるかと思いますが、ある程度の時間をあけて、11月中には設定できればと思います。日程等については、あらためて書面でお知らせしますのでよろしくお願いします。

**○部会長** それではこれで「登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会」の第6回まちづくり部会を終了します。皆さん、長時間にわたりありがとうございました。